

令和8年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価（ 月 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①世界市民として自立し、探究心、知識、思いやりに富み、豊かな世界観を身に付けたグローバルリーダーの育成に向けて、質の高い英語教育、多様な言語や文化の学び、及び探究的な学びを重視した国際教育の取組を推進する。	①各教科のものの見方や考え方を踏まえ、概念的理解につながる「生きて働く知識・技能」を身に付けさせる授業研究を実践する。 ②総合的な探究の時間において検証可能な問いの設定に基づき、生徒が主体的に研究を深める自走型探究学習を推進する。	①各単元において「生きて働く知識・技能」が身に付いた姿を意識したマトリックスを作成し、資質・能力を明確化した授業設計と研究を進め、公開研究授業を通して授業改善を検証する。 ②適切な進捗管理と他者目線によるフィードバック、ピアサポートを強化し、校内外において成果発表の機会の拡充を図る。	①個別の知識や技能の一般化・統合を通じて概念的な理解を深める授業実践を進め、その成果を公開研究授業で実施できたか。 (振り返り評価、アンケート) ②総合的な探究の時間において、学習目標の達成に向けた取組が実施できたか (生徒による授業評価、魅力と特色アンケート)					
2	生徒指導・支援	①多様で柔軟な生徒支援体制及び相談体制を推進し、規範意識を身に付けさせるとともに、生徒の自己理解と相互理解を深めるきめ細かな指導・支援を行う。	①関係機関と連携した組織的支援体制を強化し生徒の課題について早期発見・早期対応を図る。 ②学校生活全体を通じて生徒の主体性と自己管理能力を育成する支援指導をする。	①SCやSSW等との連携、ケース会議の開催等をとおして職員の情報共有を徹底し、生徒が抱える課題の把握及び適切な指導・支援を行う。 ②生徒会執行部や各種委員会活動を通して自主的な企画立案と運営をサポートし、生徒の主体的活動を促進する。	①かながわサポートドックの効果的な活用や教育相談COとの連携を行い、生徒の課題の把握及び適切な指導・支援が実施できたか。 (ケース会議実施回数) ②学校行事や部活動等、生徒の主体的な活動を支援できたか。 (事後アンケート、魅力と特色アンケート)					
3	進路指導・支援	①海外を視野に入れた生徒の進路希望の実現に向け、学習意欲を高め、幅広い学力の習得と定着を図り、組織的・計画的な進路指導を行う。 ②生きる力の育成を目指し、自主的に将来の進路や職業について深く学び、人生設計ができる資質・能力を育む。	①自らの学力や進路目標を的確に把握し、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ②総合的な探究の時間等と関連付け、幅広い視野で多様な進路選択の中で自らの将来を設計する力を育成する。	①模試の振り返り、キャリアパスポートの記入、面談を行うことで、自らの学力や目標等を定期的にチェックし改善する。 ②進路講演会や外部講座等を充実させ、様々な学習活動と進路選択の接続を図る。	①模試の振り返り講座を進路指導や面談等でいかせたか。(模試振り返り率、進路面談実施率) ②卒業生による進路講演会、その他ワークショップ、各種進路ガイダンス等の広報と内容の充実化により参加率と満足度を高めたか。大学体験講座等により、多様な学習活動と自らの進路を見据えた活動ができたか。 (進路実績、魅力と特色アンケート)					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	①環境問題や社会奉仕について取り組み、生徒が主体的に関わりながら、地域に開かれた学校づくりを行うとともに、地域社会や国際社会に貢献できるようにする。	①広報活動の推進、学校運営協議会の活用及び地域の町内会や小・中・特別支援学校等との連携を通して、地域社会に開かれた学校づくりを推進する。 ②高大連携協定を結んでいる大学をはじめ、大学や研究機関などの教育力を活用し、国際社会に貢献する意識を高める機会を増やす。	①学校説明会、学校ホームページやSNSを活用して、I Bコース、第二外国語等、本校の魅力を積極的に発信する。在学生、卒業生の声にフォーカスし、具体的な学校生活を想像できるよう発信方法の工夫を行う。様々な行事等を通じて地域連携の取組を推進する。 ②高大連携協定を結ぶ東京外国語大学や清泉女子大学との連携を充実させるとともに、各種機関と連携・協働を推進していく。	①中学生とその保護者、及びその他外部に本校の魅力が伝わる学校説明会をはじめとする広報活動ができたか。学校ホームページなどを通じて魅力を発信できたか。 (学校説明会参加者数、事後アンケート、HP 更新頻度) ②大学や研究機関との連携等を通じて、国際社会に貢献する意識の醸成ができたか。 (参加生徒割合、魅力と特色アンケート)					
5	学校管理 学校運営	①ワーク・ライフ・バランスに配慮した教員の働き方改革を推進する。 ②生徒の安心・安全のために教育環境を整備し、併せてコンプライアンスの徹底、事故・不祥事防止に努める。	①ICTの利活用を通じて、会議の効率化および会議時間の短縮を図る。 ②施設・設備の安全点検および確認を徹底するとともに、避難訓練やDIG研修等を通じて、生徒および職員の防災意識の向上を図る。さらに、定期的な清掃の実施および清掃器具の整備を進め、学校環境の継続的な改善に取り組む。	①ICTの利活用を通じて、会議資料のペーパーレス化やオンライン会議を推進し、資料共有や回覧を通じて、会議の効率化や会議時間の短縮を図る。 ②危険につながる箇所の点検や確認を進めるとともに、実践的な避難訓練の実施を目標とする。校内清掃活動では、日常清掃に加え、定期的な重点清掃日を設定し、清掃器具の点検・補充・更新を計画的に行う。	①ICTの利活用を通じて会議の効率化を図ることができたか。また、働き方改革に向けた取り組みを推進することができたか。 (業務改善実施件数、職場改善アンケート) ②定期的な施設設備の点検実施ができたか。前年度の課題を改善した避難訓練ができたか。学校環境の改善に取り組むことができたか。 (事故不祥事件数0件)					